

みしま



五色の光で幸せ願う

「涅槃会」(ねはんえ)の団子まきは曹洞宗の寺で行われる習わしです。お釈迦様が火葬されたとき五色に輝き、その遺灰を弟子たちが丸めてお守りにしたという伝説にちなみ、色付けされた団子がまかれます。

11名が9年間の義務教育を終え、それぞれの道へ

4月 目次



11名が卒業した三島中学校卒業式

三島中学校卒業式は3月11日に行われ、男子6人、女子5人、計11人が卒業しました。馬場勇校長は「将来、開拓する力を故郷三島町のため、自分の生き方に繋げてください。たゆまぬ努力を続け、己の道を切り開いてほしい」と式辞を述べました。次に坂内洋二教育長は「中学校卒業は自分の夢、目標実現に向けた旅のスタートです。皆さんが生きていくこれからの社会は、自由でバラ色の可能性と同時に様々な試練や困難が待ち受けています。実りある人生にするためには、夢・希望を漠然に持つのではなく、実現しようとする強い気持ちを持ってほしい」と告辞を述べました。続いて矢澤源成町長、小柴修一町議会議長、齋藤行紀PTA会長が祝辞を述べました。式では別れを惜しみながら、卒業生が一人一言、家族への感謝の言葉を述べた後、「蛍の光」「仰げば尊し」「はばたこう 明日へ」を合唱し、保護者の皆さんは大きくなった我が子の姿に涙ぐんでいました。



希望に胸をふくらませ、卒業証書を受け取った卒業生



卒業生は退場する際、お世話になったお父さんやお母さんに花を手渡しました

- 2 三島中学校卒業式
- 3 三島小学校卒業式
三島保育所満了式
- 4 第35回三島町生活工芸品展
- 5 第15回全国編み組工芸品展
- 6 ふるさと文化財の森に設定
「三島町キリ林」全国初
- 7 町民記者通信
ひな人形作り（高清水地区）/高清水地区に伝承されている「ひな流し」/涅槃会（団子まき）行われる（宮下地区）/隣近所の付き合いを大事に（宮下地区）/「春よ来い！」と願いを込めて団子まき（西方地区）
- 8 平成28年度 町の予算
- 9
- 10 民話
- 11 町史
- 12 軽自動車税の税率について / 軽自動車税のグリーン化特例について / 3. 11東日本大震災から5年
- 13
- 14 各種お知らせ
- 15
- 16 カタクリ・さくらまつり開催 / 町長日記



福島県大沼郡三島町 みしまち

三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



雛流し

11名が大きな夢を持ち中学校へ



新たな目標を胸に三島小学校を卒業した11名



在校生や先生方とお別れの挨拶を交わす卒業生

三島小学校の卒業式は3月23日、同校体育館で行われ、男子8名、女子3名、計11名が卒業しました。三星了一校長は「中学校へ行っても、何事にも失敗を恐れず、全力でチャレンジしてください」と式辞を述べました。次に、坂内洋二教育長は「生活・学習・運動面など、少し高め目標を設定し、日々の努力を継続し、積み重ねることが着実に自分を成長させる原動力となります。小学校で学んできた自信と誇りを胸に、先生方や先輩から学んできた教えを守り、立派な中学生になってください。」と告辞を述べました。続いて、矢澤源成町長、小柴修一町議会議長、青木正幸PTA会長が祝辞を述べました。卒業生11名は、卒業証書を授与された後、中学校での目標や将来の夢を一人一人発表しました。

夢ふくらませ1年生へ6名が満了

三島保育所満了式は3月26日に行われ、年長児6名が満了しました。五十嵐乃里枝所長から満了証書を受け取ると、後ろで待つ、お父さん・お母さんのところに向かい、「ありがとうございました」と言って満了証書を預けました。その後、全員で「思い出のアルバム」などを歌い、思い出がたくさん詰まった保育所とお別れしました。保護者の方々は、小学校へと進む我が子の成長した姿を温かく見守りました。



児童たちは先生方と記念撮影を行いました



大きく成長し、保育所を満了した6名の児童たち



満了証書を受け取った児童

第35回三島町生活工芸品展 (町展) 第15回全国編み組工芸品展 (全国展) 同時開催



矢澤町長から賞状を受け取る馬場修子さん。写真右が大賞受賞作品の「のれん」

第35回三島町生活工芸品展

大賞

馬場修子 さん (松原)

作品「のれん」



第35回三島町生活工芸品展が3月12日・13日、生活工芸館で開催され、三島町の国指定伝統的工芸品「奥会津編み組細工」をはじめ、木工品や木綿の針子など、出品総数687点の中から、馬場修子さん(松原)の作品「のれん」が大賞に選ばれました。

第35回三島町生活工芸品展

▼大賞 馬場修子 (松原) のれん ▼伝統技術者賞 渡部和 (大石田) こたつ掛け、長郷タツエ (間方) ヒロロスカリ、久保田節子 (間方) ヒロロモワダバッグ ▼優秀賞 鈴木みえ子 (松原) 山ブドウ手提げかご、目黒政榮 (滝谷) マタタビ四つ目箆、五十嵐フミエ (大石田) 財布、長谷川一雄 (桑原) マタタビ箆 ▼奨励賞 橋本公和 (宮下) 山ブドウ手提げかご、五十嵐フミイ (大谷) ヒロロバッグ、菅家アイ子 (間方) 山ブドウ手提げかご ▼三島町議会議長賞 二瓶讓 (大谷) 山ブドウ手提げかご ▼日本赤十字社福島県支部長賞 五十嵐文吾 (大登) マタタビザル ▼福島県老人クラブ連合会長賞 渡部佐治郎 (西方) マタタビ・山ブドウかご ▼三島町文化協会賞 菅家千代子 (間方) アケビかご ▼三島町商工会長賞 秦愛子 (大石田) ヒロロ・アカソ手提げかご ▼三島町観光協会賞 秦育雄 (大石田) 山ブドウ手提げかご ▼三島町社会福祉協議会長賞 飯塚



勲 (大石田) マタタビザル ▼三島町老人クラブ連合会長賞 菅家清二 (桑原) マタタビザル ▼福島民報社賞 菅家ハルイ (間方) ヒロロ・アカソバッグ ▼福島民友新聞社賞 長谷川美恵子 (川井) ヒロロ・モワダシルダーバッグ ▼有限会社マルシエみしま賞 角田タケノ (浅岐) ヒロロ・アカソスカリ ▼三島町生活工芸運動友の会長賞 金子美由樹 (宮下) ヒロロ・モワダバッグ、千葉アキ子 (滝原) 山ブドウ抱えバッグ、二瓶辰雄 (西方) 山ブドウかごバッグ ▼宮崎清賞 佐久間スミ子 (宮下) 財布、角田晴實 (川井) マタタビ箆、目黒良介 (滝谷) マタタビ米研ぎ箆、角田清義 (浅岐) マタタビ米研ぎ箆、二瓶



三島町生活工芸品展会場内

キシイ (名人) ヒロロ・モワダ手提げバッグ、栗城ゆみ子 (宮下) アケビかご、小平廣市 (西方) 山ブドウ手提げかご、渡部和 (大石田) パッチワークの炬燵掛け、長谷川一雄 (桑原) マタタビの大平箆、五十嵐フミイ (大谷) ヒロロのバッグ、鈴木みえ子 (松原) 山葡萄の手提げ籠

編み組細工を求めて全国から多数来場

第15回全国編み組工芸品展
経済産業大臣賞

小山田耕治 さん（鹿児島県）

作品「丸バラ」



経済産業大臣賞を受賞した小山田耕治さん。写真左が作品の「丸バラ」

第15回全国編み組工芸品展も交流センター山びこで同時開催され、応募作品813点の中から、小山田耕治さん（鹿児島県）の作品「丸バラ」が最高賞の経済産業大臣賞に選ばれました。

第15回全国編み組工芸品展

▼経済産業大臣賞 小山田耕治（鹿児島県）丸バラ ▼林野庁長官賞 佐藤聡明（福島県）両取手付角形かご ▼東北経済産業局長賞 星隆司（山形県）山ぶどう丸底カゴバック ▼福島県知事賞 斎藤早苗（埼玉県）春彩かご ▼一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞 大山達朗（福島県）手提げバッグ ▼三島町長賞 森田伸也（岩手県）鬼ぐるみバッグ ▼三島町議会議長賞 板橋泰二郎（滝原）山ブドウ手提げ籠 ▼福島民報社賞 五十嵐富一（大谷）ガマかご ▼福島民友新聞社賞 鈴木優子（福島県）ヒロロ・モワダ・アカソシヨルダーバッグ ▼NHK福島放送局賞 三星智善（福島県）脱衣カゴ ▼福島テレビ賞 板橋サガミ（滝原）ヒロロ・モワダ・バッグ ▼福島中央テレビ賞 矢部晋也（福島県）花結びバッグ ▼福島放送賞 齋藤トキイ（福島県）長財布 ▼テレビユー福島賞 齋藤クニイ（会津若松市）花結び編み買い物カゴ ▼奥会津三島編組品振興協議会長賞 遠藤正

子（山形県）なわ編みかご、市川里美（福島県）マタタビ大ザル ▼奨励賞 五十嵐喜久男（福島県）手提げ籠（肩掛け付）、斎藤ゆかり（福島県）庄助袋セット、小林秋子（新潟県）山ぶどう下駄、西潟祐子（新潟県）山ブドウカゴバック、中島和代（山口県）財布、西谷喬（大阪府）六稜花器、田代カツ子（福島県）蓑（ミニチュア）



全国編み組工芸品展会場内



伝統工芸士による実演

ふるさと文化財の森に設定

「三島町キリ林」 全国初



「ふるさと文化財の森」に指定された三島町キリ林（写真は黒男山地内）

文化庁の「ふるさと文化財の森」に、大石田共有財産区・西方共有財産管理会所有の三島町と柳津町にまたがる「キリ林」が設定されました。今回、木材（キリ）の分野で設定されるのは全国で初めてとなりました。

書交付式が行われ、三島町からは矢澤町長が出席し、文化庁長官の青柳正規氏から設定書が交付されました。交付後、文化庁長官との歓談の席が設けられ、矢澤町長が三島町の会津桐についてPRしました。

ふるさと文化財の森に設定されると、全国の文化財建造物の修理などに使われる資材の供給地となり、さらに文化庁から森林などの整備補助などを受けることができます。

「ふるさと文化財の森」の設定は、全国で68カ所となり、福島県内では、平成19年3月の大内宿茅場（下郷町）に続き2カ所目となりました。

3月18日、東京都千代田区にある文化庁の一室で「ふるさと文化財の森」の設定



文化庁長官の青柳正規氏から設定書が矢澤町長へ交付されました



ひな人形作り (高清水地区)

文・写真 町民記者 菅家敏一さん (高清水)



会津大学短期大学部から渡部先生と3名の学生さんが、伝承文化の研究をされていることで、見るだけではなく、是非作ってみたいとの気持ちから、ひな人形作りに来ました。初めてのことでしたが、4時間程度で見事に完成しました。人形の表情や姿形も健気におしとやかな出来栄で感心しました。3月4日にひな流しの行事がありますが、どうですか?と学生さんに尋ねたら、「もったいなくて、家に飾って大切にします」との事でした。学生の方々が関心を持ってくださったことが、このうえない喜びです。



高清水地区に伝承されている「ひな流し」

文・写真 町民記者 菅家敏一さん (高清水)



3月4日、桃の節句に飾られた各家庭のひな人形を集めて流す、恒例の「ひな流し」が行われました。地区の方々と三島小学校1・2年生の皆さんが、紙で作ったひな人形を只見川と一緒に流しました。子どもの健やかな成長を込めて作ったひな人形が穏やかに岸を離れていく時は、愛おしそうなお表情で、子どもたちの健気な心が垣間見えた瞬間でもあります。このような優しい気持ちの子どもたちの成長を、大人たちが支えていけば、きっと素晴らしい町になることでしょう。ありがとう三島小学校の皆さん。



涅槃会 (団子まき) 行われる (宮下地区)

文・写真 町民記者 小島 純さん (宮下)



3月15日、宮下地区の宮昌寺において、午前9時からの上法事、春彼岸先祖供養に引き続き、涅槃会(団子まき)が行われ、集まった住民が方丈様、宮昌寺護持会の方々が撒く色とりどりの団子をひろい集めました。



隣近所の付き合いを大事に (宮下地区)

文・写真 町民記者 小島 純さん (宮下)

3月21日、隣近所の付き合いを大事にしていこうという事で、西恭平さん(宮下)が宮下町内の若者を集め、自宅(郵便局前、元麴屋)で手づくり味噌作りを行い、若者や隣近所との交流を図りました。



「春よ来い!」と願いを込めて団子まき (西方地区)

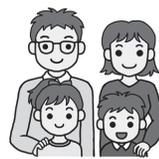
文・写真 町民記者 本名与四郎さん (西方)



3月20日の春分の日に西方・西隆寺本堂において、春恒例の「団子まき」が行われました。団子まきが始まる前に遠藤弘佳住職が団子まきの由来について分かりやすく説明しました。本堂には、地元の子供たちやお年寄りだけでなく、近郷近在の多くの方々が約120人以上参集し、熱気に溢れました。団子まきは、遠藤住職や護持会の役員が集まった信徒や住民に5色の団子のほかに鈴のお守りやアメをまいて、無病息災、交通安全など祈願しました。団子まきに先立ち、2月14日に遠藤住職、護持会役員や地元の小学生たちが団子まき用のお米などの協力のために西方地区全域を小雨の降る中、托鉢をして回りました。また、3月18日には、地区のおばあちゃんを中心に50人ほどお寺に集まって、托鉢して集めたお米に手際よく5色の色粉を練り合わせ、たくさんの団子を丸めました。

町の予算

Pickup1 住宅



町の総合的な住宅施策を明確にし、多様化する住民のニーズに対応するため、住環境の整備を拡充し、人口流出の軽減、町内移住者や若者の定住安定化など、町内における住まい方の選択肢の拡充を図ります。

問 産業建設課
☎ (48) 5566

Pickup2 若者定住



若者定住に向け、起業・雇用創出を支援し、雇用の場の確保を図るとともに、各地区やまちづくり団体と連携し、空き家データベースの構築や所有者の意向調査を実施し、空き家の利活用による居住の確保を図ります。

問 地域政策課
☎ (48) 5533

Pickup3 地域資源の発掘・活用



生活工芸運動の振興を図り、編み組細工のみならず、木工・さき織等、様々な工芸分野を視野に入れた取組に加え、山の仕事も「生活工芸村構想」事業として展開し、「ものづくりの担い手」を育成し、若者定住や雇用につなげ、地域経済の活性化を図ります。

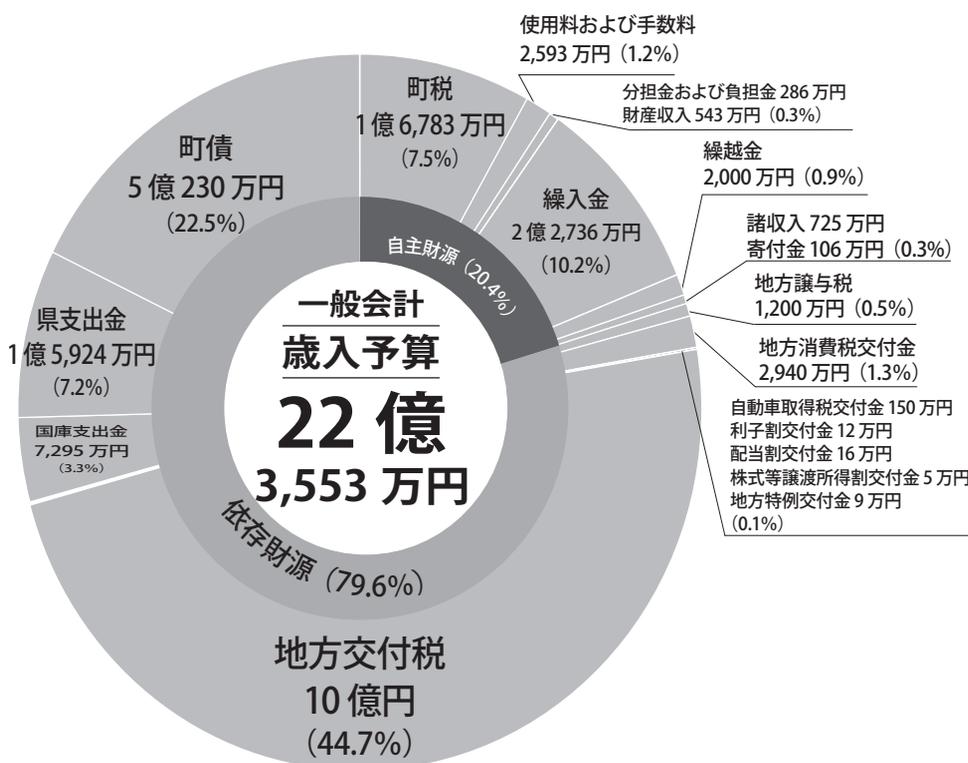
問 生活工芸館
☎ (48) 5502

Pickup4 福保祉健



一人・二人暮らし高齢者、老々介護などの世帯に対し、福祉サービスの充実を図り、地域と連携した支援ができる仕組みづくりを目指します。また、健康づくり講座の開催、生活習慣病予防の為の対処法等を伝えていく個別指導を強化しながら、みんなが健康で明るく暮らせる町を目指します。

問 町民課
☎ (48) 5565



町の一般会計と7つの特別会計の予算が、町議会3月定例会で議決され、平成28年度の行政がスタートしました。今年度は、単身用住宅整備やミニライズセンター整備など、大きな投資的事業に着手します。

平成28年度 会計別予算額

会計種別	予算額	前年度からの増減
一般会計	22億 3,553万円	- 7,347万円
特別会計	国民健康保険	2億 8,038万円 + 342万円
	簡易水道	2億 270万円 + 1,453万円
	路線バス	2,890万円 + 106万円
	農業集落排水	2,457万円 + 60万円
	介護保険	4億 5,853万円 + 277万円
	戸別合併処理浄化槽	4,394万円 - 143万円
	後期高齢者医療	2,765万円 - 110万円
	合計	33億 220万円

用語の説明

● 一般会計と特別会計
町の会計には、一般会計と特別会計があります。一般会計は基本的な経費の会計、特別会計は特定の事業を行うために区分した会計です。

● 町税
町民の皆さんに納めていただく税金です。町民税、固定資産税、軽自動車税などがあります。

● 町債
町の借金で、公共施設の建設など、一時的に多額の費用を必要とする場合の財源に充てられます。

● 地方交付税
町の財政力に応じて、国から交付されるお金です。財政力の不均衡をなくし、一定の



Pickup8
各種祝金の支給

町では、次世代を担う子どもの出産に対する祝金・若者定住のための結婚祝金の支給を充実させ、子育てや若者定住について応援します。なお、平成28年度からの支給額は下記のとおりです。

出産祝金	30万円
結婚祝金	10万円
就職祝金	5万円

☎ 総務課
☎ (48) 5511



Pickup7
生涯学習

世代や性別に合わせた各種教室、健康づくりに向けたウォーキング大会などを実施します。また、若者交流促進事業に取り組み、出会いと交流の場を創出するとともに、町の活性化及び定住や結婚の促進を図ります。

☎ 生涯学習課
☎ (48) 5599



Pickup6
安全安心

地区住民の一時避難所となる各地区集会所の耐震改修を年次計画に基づき実施し、特に老朽化の著しい集会所については建替えを実施します。また、消防積載車を年次計画に基づき更新します。

☎ 総務課
☎ (48) 5511



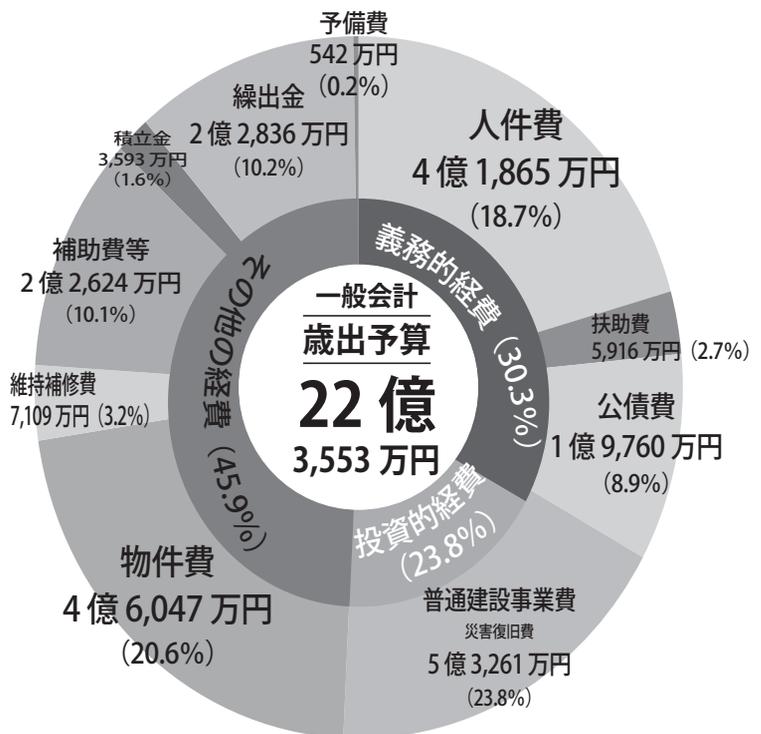
Pickup5
農業

農業法人を設立し、水稻の作付面積を増やしてく上で欠かせない施設整備の一環として、ミニライスセンターを整備します。介護食等での需要を掘り起こすため、野菜のパウダー化の商品化を目指し、調査・研究を進めていきます。

☎ 産業建設課
☎ (48) 5566

主な投資的事業

浅岐集会所新築・地区集会所耐震化
公用車・除雪機・塵芥収集車購入
交流センター屋根塗装工事
ミニライスセンター整備
林道舗装（倉掛沢線、大窪矢柄線）
ふくしま森林再生事業
町道館中乙田線外改良（測量設計）
三島大橋修繕工事負担金
大登地内消雪水源調査
单身用町営住宅整備
小型ポンプ消防積載車購入（川井・松原班）
学校給食センター建設分担金



- 物件費 賃金、旅費、消耗品費、燃料費などの消費的な経費です。
- 維持補修費 道路や公共施設などを管理するための経費です。
- 扶助費 高齢者、児童、心身障がい者などに支援する経費です。
- 補助費等 町から他の団体などに対して、特定の目的で支払う補助金などです。
- 普通建設事業費 道路や住宅、公共施設などの整備のための経費です。
- 公債費 町の借金を償還する（返す）ための経費です。
- 積立金 財政運営のために積み立てるお金です。
- 繰出金 一般会計から特別会計に出しているお金です。
- 国庫支出金・県支出金 町が行う特定の事業に対して、国や県から交付されるお金です。
- 人件費 報酬や給与などです。
- 物件費 賃金、旅費、消耗品費、燃料費などの消費的な経費です。
- 維持補修費 道路や公共施設などを管理するための経費です。
- 扶助費 高齢者、児童、心身障がい者などに支援する経費です。
- 補助費等 町から他の団体などに対して、特定の目的で支払う補助金などです。
- 普通建設事業費 道路や住宅、公共施設などの整備のための経費です。
- 公債費 町の借金を償還する（返す）ための経費です。
- 積立金 財政運営のために積み立てるお金です。
- 繰出金 一般会計から特別会計に出しているお金です。

民話



第60話 猿むこ入り

元話 故 杉本 ミツイさん（松原）
再話 五十嵐 七 重さん（西方）

むかし あったど

こんな山ん中さ三人の娘もったじいさんいだど

千刈り田つう でつかうい田もつてらつてなあ、水見き行つたど

「いやいや これは容易でねえ。この千刈り田さ水かけてくれるや

づいだらば、娘三人居んだがら、どれでもくれんだがなあ」

ついたらば猿が出て来て

「じい様 何が言つたなあ」つたの

「あー雨は降んねえべし 千刈り田さ水かけるは容易でねえ。誰んじえも水

かけてくつちやら嫁くれんべえわ」

「えーっ 本当？ ほんじゃら おれ 水かける」つつつけがどんどん水

かけてくつちえ、たちまち水かげだど じい様は困つちまつたど

「いやいや 猿にはあんな事言つちまつて嫁だれ、やんだやんだ つうべ

な」

じい様向こう鉢巻きして、ウーウーって寝でだど。したら末つ子

「じいちゃん 何、心配してんの？」

じい様言い出せねえでたら、一番おおきな娘きて

「じいちゃん 何がしたの？」つて来た

「うー こうこう こう言うわけで、千刈り田さ水かげでくつちやのは猿な

だわ。お前え嫁さ行つてくんねえが？」つたら「おーやだ やだ」おごつ

てパイパイ出つたど

やつぱ 二番娘おも おごつちまつたど。したら三番娘お「そんたら お

れが行ぐ。心配えしやんな」つうど猿がおがたになつて、山の猿どごさ

行つたわけだど。

そんじえ猿どごさ行つても、節々に親んどごさ礼に来んだどお

さで三月の節句んなつて、

「さる殿 礼に行ぐがら じいちゃんに餅ついでぐべ。みやげに持つてぎで

え」どつて餅ついで。したら猿が「丸めで持つてぐが？」つた

「いや〜じいちゃんは丸めつと、手くせえ〜つてやだがるわ」

「んじゃ なじよする？」

「重だくて悪いが 白ごでら背負つてつてもらいでえ」

「おー よしよし。背負つてぐど喜ぶべなあ」つて出だど

山おつちえぐど、やつぱり三月と言えは昔は旧の三月だがら、桜の

花が川端あさ咲いでだどお

「おー良い花だごど。うちのじいちゃんは、とでも桜の花が好きだよ。

あの花 ひと枝」ほしいなあ」つたのな

「よしっ。そんでは採つてやる」ちつて白下さおつけで登んべどしたら

「あーその白おろすつうど、じいちゃん土くさいがらやだつう」

「そつが、じゃら背負つてのぼる」つうどチョロチョロ上つと

「この 枝がー」つう

「まっと 上の枝つ」つて、だんだん上さあがらせで、枝の細〜い

どごさ登らせで

「この 枝がー」つてるうちに ドサーーン 白どいっしよに落

ちで、そのまんま白の下敷きんなつて死んちまつたど。

そんで娘は、猿がどごがらのがれで帰つたどお。

ぎつとむかしさげえだ

町史編さん室だより

第3回

もし、ご家庭に古い文書などがございましたら、
交流センター山びこまでご一報ください。
☎(52) 2165

「夫間方村盛衰栄枯之旧伝御尋ニ其覚」

夫間方村盛衰栄枯之旧伝御尋ニ其覚
享和三年(一八〇三)の頃、當時の村名主である二瓶義兵衛が書いたとされる『覚書』に寛永年間(一六二四～一六四五)に起こった間方村の悲劇がつけられています。

寛永三年(一六二六)の頃、間方村は安土桃山から江戸時代にかけての慶長(一五九六～一六一五)の頃は九十石余の田畑を四十二軒で耕作する豊かな村だったそうです。しかし、加藤明成が会津藩主になった寛永の頃に、年貢の基準となる村高が百六十石と七十石近く増え、年貢率も約六割五分と高くなってしまいました。
村人の負担は大変大きく、その上、江戸時代の四大飢饉(ききん)のひとつである寛永十九・二十年の大凶作(「寛永の大飢饉」)に見舞われ、死する者や村から逃げる者が後を絶ちませんでした。ついに六軒しか残らず名主も行方知れずとなった悲惨な出来事です。
その後、残った「間方六(軒)百姓」と云われる人々、そして天和年中(一六八一～一六八三)に大谷村から移り住んだ名主が新たに間方村を形づくつ

「夫間方村盛衰栄枯之旧伝御尋ニ其覚」

享和三年(一八〇三)、当時の村名主である二瓶義兵衛が書いたとされる『覚書』に寛永年間(一六二四～一六四五)に起こった間方村の悲劇がつけられています。

『覚書』によれば、間方村は安土桃山から江戸時代にかけての慶長(一五九六～一六一五)の頃は九十石余の田畑を四十二軒で耕作する豊かな村だったそうです。しかし、加藤明成が会津藩主になった寛永の頃に、年貢の基準となる村高が百六十石と七十石近く増え、年貢率も約六割五分と高くなってしまいました。

村人の負担は大変大きく、その上、江戸時代の四大飢饉(ききん)のひとつである寛永十九・二十年の大凶作(「寛永の大飢饉」)に見舞われ、死する者や村から逃げる者が後を絶ちませんでした。ついに六軒しか残らず名主も行方知れずとなった悲惨な出来事です。

その後、残った「間方六(軒)百姓」と云われる人々、そして天和年中(一六八一～一六八三)に大谷村から移り住んだ名主が新たに間方村を形づくつ

ていったと考えられます。

それ間方村盛衰栄枯の旧伝ヲ尋ねに其覚
慶長年中頃迄は御高九拾石八斗、村居も木ノ松沢・並木・中山・入間方四ヶ所住居惣名間方と号し、百姓も四十二人(軒の意) 渡世容易に相続いたし候処、寛永年中度々増高仰せつけられ、百六拾石に相成り、殊に御免相(年貢率)も六ツ四分九厘まで高免に召し上げられ、難儀仕り候上、売りつづれ、死つづれ等多く相続き相成難く、殊に午未兩年の大不作にて必至と行き詰まり、越後国へ離散いたし残り式十六人に相成り(中略)、翌二十一年九月十日晩、肝煎弥蔵を始め十四竈越後に欠落仕候(中略)、残り六人百姓名前、次兵衛・長左衛門・太右衛門・勘解由左衛門・太次右衛門・甚右衛門、此もの共、残留候也、是を間方六百姓と言ふ也。名主弥蔵行方知れず。跡名主七郎右衛門若名義兵衛天和年中大谷村より来役儀相勤(後略)。

軽自動車税の税率が引き上げられます

平成 26 年度税制改正に伴い、平成 28 年度から軽自動車税の税率が引き上げとなります。

<原動機付自転車、二輪車及び小型特殊自動車>

◆車両ナンバーがついている全ての車両が対象となります。

車種区分		税率(年額)	
		平成 27 年度まで	平成 28 年度から
原動機付自転車	50cc 以下	1,000 円	2,000 円
	50cc 超～ 90cc 以下	1,200 円	2,000 円
	90cc 超～ 125cc 以下	1,600 円	2,400 円
	ミニカーなど (50cc 以下)	2,500 円	3,700 円
軽二輪	125cc 超～ 250cc 以下	2,400 円	3,600 円
二輪の小型自動車	250cc 超	4,000 円	6,000 円
小型特殊自動車	農耕作業用 (トラクター、耕運機等)	1,600 円	2,400 円
	その他 (ペイローダー、フォークリフト等)	4,700 円	5,900 円

<四輪以上及び三輪の軽自動車>

◆税額が変更となるのは、

- ①平成 27 年 4 月 1 日以後に新規検査をした車両
 - ②新規検査から 13 年を経過した車両 (13 年を経過した年の次の年度から)
- となります。それ以外の車両については変更ありません。

※新規検査とは、初めて車両ナンバーの交付を受けたときの検査です。

検査年月の確認は、車検証の「初年度検査年月」欄をご覧ください。

車種区分		税率(年額)		
		平成 27 年 3 月 31 日までに 新規検査をした車両	平成 27 年 4 月 1 日以後に 新規検査をした車両 ①	新規検査から 13 年を経過した車両 ②
乗用	自家用	7,200 円	10,800 円	12,900 円
	営業用	5,500 円	6,900 円	8,200 円
貨物用	自家用	4,000 円	5,000 円	6,000 円
	営業用	3,000 円	3,800 円	4,500 円

＜軽自動車税のグリーン化特例＞

平成 27 年度税制改正により、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までに新規検査を受けた車両のうち、環境負荷の小さい車両については、平成 28 年度分に限り税率を軽減する軽課税率が適用されます。

※軽減は平成 28 年度のみです。

ガソリン車・ハイブリッド車は平成 17 年排出ガス基準 75%達成車に限ります。

車種区分		軽課税率(年額)		
		電気自動車 天然ガス自動車 (概ね 75%軽減)	ガソリン車、ハイブリッド車	
			平成 32 年度燃費基準 + 20%達成車 (概ね 50%軽減)	平成 32 年度 燃費基準達成車 (概ね 25%軽減)
乗用	自家用	2,700 円	5,400 円	8,100 円
	営業用	1,800 円	3,500 円	5,200 円
貨物用	自家用	1,300 円	2,500 円	3,800 円
	営業用	1,000 円	1,900 円	2,900 円
三輪のもの		1,000 円	2,000 円	3,000 円

3.11 東日本大震災から 5 年

災害時避難所

町民センター	早戸生活改善センター
宮下活性化センター	森の校舎カタクリ
桑原集会所	交流センター山びこ
大登生活改善センター	生活工芸館
川井集会所	三島小学校
桧原多目的集会所	三島中学校
滝谷集会所	三島保育所
大谷活性化センター	
浅岐集会所	
間方集会所	
西方ふるさとセンター	
大石田生活改善センター	
名入集会所	
高清水集会所	
滝原林業集会センター	

災害が起きたら隣近所一緒に
声を掛け合い避難所へ

町では各地区の集会所など、災害時に避難所となる施設があります。地震などの災害時には、町は被害状況に応じて避難の指示・勧告等を出します。町民の皆さんは、隣近所で声を掛け合い、指定された避難所に避難してください。

☎ 役場 総務課 (48) 5511

「無防備な 心に火災が かくれんぼ」

～平成 28 年度全国統一防火標語～

春になり、空気の乾燥する季節となりました。三島町では4月5日㊤から4月11日㊦までの間、春季火災予防運動を実施します。風の強い日が続くことから、タバコの不始末などの、ちょっとしたことにより、悲惨な火災が各地で多く発生しています。以下の事をよく守り、安心して暮らせる町づくりを進めましょう。

4つの注意点

- ①野焼きは行わない。
- ②マッチ、タバコ等に火をつけた後は確実に消火する。
- ③火気の近くに燃えやすいものを置かない。
- ④ガソリン等の引火しやすいものの近くで火気を使わない。



火事と救急・救助は **119番**

「誓います 森の安全 火の始末」

～平成 28 年全国山火事予防統一標語～

山火事は、空気が乾燥している冬から春先にかけて多く発生しています。山火事は火の回りが早く、消火しようとして煙に巻かれ亡くなる方もいます。火災が発生した場合や発見した際は、無理して消火しようとせず、速やかに119番通報してください。

【山火事のポイント】

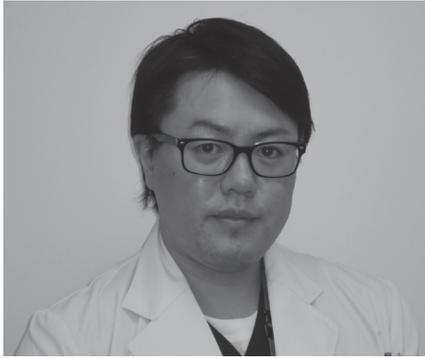
- ・枯草など燃えやすいものがある場所ではたき火をしない。
- ・風が強いときや空気が乾燥しているときはたき火をしない。
- ・たき火等、火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火する。
- ・たばこのポイ捨てはしない。
- ・火遊びをしない。

☎三島町消防団・会津坂下消防署 三島出張所 ☎(52) 3032

広報みしま 皆さんからの情報提供をお待ちしています

「広報みしま」は、皆さんに親しまれる広報誌を目指して編集しています。町からのお知らせを分かりやすく伝えることはもちろん、町民の皆さんの顔、声を掲載することが最も大切と考えています。皆さんの思い、努力、願いなどが、読まれる方の関心を引き、感動を与えます。「広報みしま」は、町民の皆さんのための広報誌です。いつでも情報をお待ちしています。

☎役場 総務課 総務係 ☎(48) 5511



診療日記

～ピロリ菌について～

福島県立宮下病院
内科 牧 匠

「ピロリ菌」をご存知ですか？
名前は聞いたことがある、という人は多いかもしれません。ピロリ菌は胃の中に住みつく細菌です。ピロリ菌がいると、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、胃がんになりやすくなります。そのほかにも、悪性リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、慢性蕁麻疹などの病気の原因となります。ピロリ菌の原因ははっきりとは分かっていませんが、井戸水からの感染や、食べ物の口移しでの感染などが考えられています。ピロリ菌がいるかどうかは、呼気テスト（息をバッグに吹き込む検査）、採血、尿・便検査、胃カメラなどで検査できます。ピロリ菌がいると分かれば、飲み薬で治療できます。3種類の飲み薬を1週間飲み続けます。ピロリ菌を除菌できたかどうかは、1, 2か月後に再び検査を行い判定します。除菌の成功率は90%を超えています。ピロリ菌がいるのかどうか気になる方は、お気軽に当院までご相談ください。

ご寄附

ありがとうございました

町社会福祉協議会へのご寄附
(ご遺志によるもの)

渡部和久様(大谷)

町社会福祉協議会 ☎ (52) 3344

4月の納税

納期限 5月2日

- ▶固定資産税(1期)
- ▶軽自動車税(1期)

忘れずに納付ください。
役場 町民課

町の人口と世帯

3月1日現在

人口	1,754	-1	出生	0
男	852	1	死亡	2
女	902	-2	転入	1
世帯	788	0	転出	0

③住民基本台帳による数値です。増減は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

「電気自動車用急速充電器」が運用を開始

昨年の秋より、道の駅尾瀬街道みしま宿駐車場内に設置を進めてきた「電気自動車用急速充電器」の設置工事が完了し、3月1日より利用可能となりました。充電の際は、電気自動車の購入の際に登録する専用の充電カードを使用するか、携帯等でクレジット情報を登録してから使用できます。充電時間は1回30分程度で、最大80%くらいまで充電が可能です。



ご寄附

ありがとうございました

滝谷建設工業(株)が町に寄附

滝谷建設工業(株)は、2月13日に開催された第44回雪と火のまつりの出店売上金を町にご寄附くださいました。目黒通浩代表取締役が役場を訪れ、矢澤町長に目録を手渡しました。



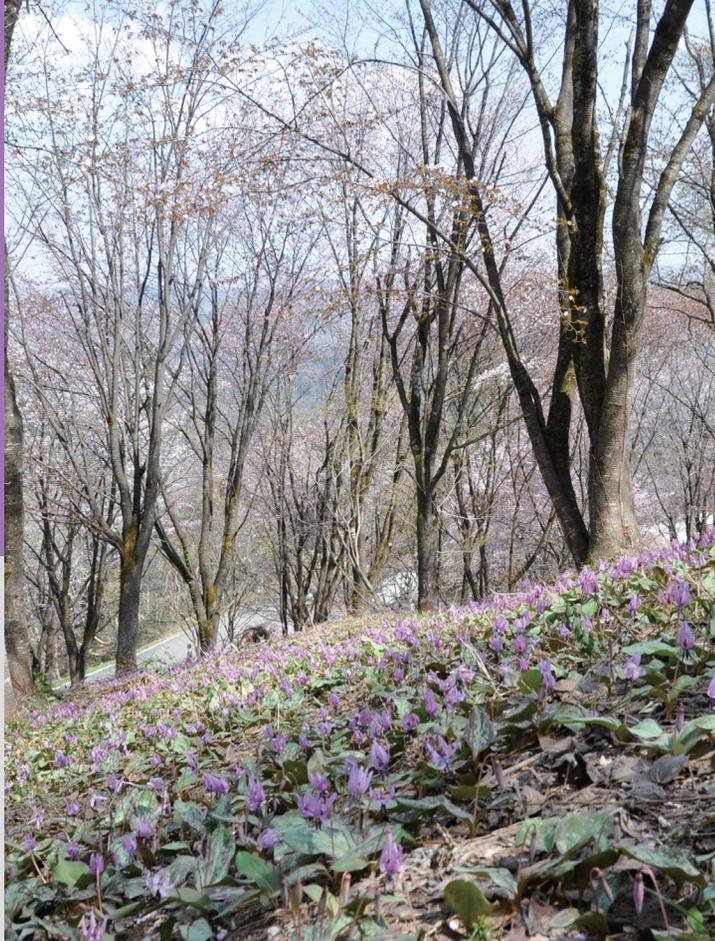
矢澤町長に目録を手渡す滝谷建設工業(株)の目黒通浩代表取締役(中央)と板橋康宏営業部副部長(左)

宮下地区建設業協同組合が町に寄附

宮下地区建設業協同組合は、2月13日に開催された第44回雪と火のまつりの出店売上金を町に寄附しました。代表理事を務める佐久間建設工業(株)の佐久間源一郎代表取締役と、滝谷建設工業(株)の目黒通浩代表取締役が3月7日、役場を訪れ、矢澤町長に目録を手渡しました。



矢澤町長に目録を手渡す佐久間建設工業(株)の佐久間源一郎代表取締役(中央)と、滝谷建設工業(株)の目黒通浩代表取締役(右)



「大林ふるさとの山」 三島町西方

オオヤマザクラの林が広がり、その山肌にはカタクリが雪解けを待って一斉に花を咲かせます。その群生は年々広がり、山一つが紫色に包まれます。斜面の遊歩道を歩いて楽しむことができます。

カタクリ・さくらまつり開催

4月16日(土) ~ 4月20日(水) 【予定】

開花は雪解けの時期や天候に左右されますので、開花情報をお問い合わせの上お出掛けください。

主催：三島町・西方地区・西方共有財産管理会
共催：西方カタクリの会・三島町観光協会

☎三島町観光協会 ☎ 0241 (48) 5000
<http://www.mishima-kankou.net/>

町長日記 ～後期振興計画～

No. 9

アンケート調査や地区座談会として何回にも渡る調整会議等々を通し、最終的には議会の御同意を戴き、5年間この計画に基づいて様々な事業を展開して行くこととなります。町民の皆さんや議会そして行政が一体となり、住民の皆様様に寄り添い、住民の幸せのために、緊張感とスピード感を持って事業を実行してまいります。

後期基本計画のテーマは「雪国の生活文化を生かした魅力ある三島を創る」～交流人口の拡大から定住人口へ～であり、そのための重点施策として4点あります。1点目は若者定住対策で、雇用の場を創出したり、住環境整備、学ぶ場と人づくりを中心とした事業を展開していきます。2点目は美しい地区づくりで、地域資源の発掘・活用です。3点目は安全安心な基盤づくりで、保健福祉の充実・社会生活基盤の充実です。4点目は推進体制の整備で、これらの事業を推進するための行政組織や各種団体組織改編等を実施してまいります。

特に今回の計画は、地方創生と連動して4点の重点施策から若者定住対策を最重点施策として位置づけ、「若者が集い、高齢者が生き生き安心して暮らせるまち」を目指していきます。若者定住対策を推進するうえで、4つの視点を考えていきます。1つ目は、定住のための雇用の場の確保に取組む。2つ目は、定住のための住宅の確保。3つ目は、生活のための利便性の向上に取組む。4つ目は、子育て世代支援のための環境整備に取組む、これら4つの視点を連動させ、年次計画を立て同時進行で事業を推進していきます。

大変な時代に局面していますが、町民の皆様様に情報を提供し、組織を開き、職員も「チーム三島」という意識と、乾坤一擲(けんこんいつてき)の覚悟で頑張っていきます。(計画の内容について、随時お知らせいたします。)

三島町長 矢澤 源成